

中学校・高等学校 外国語科 読むこと「概要・要点」を定義する

久松 功 周

本稿では、学習指導要領における「読むこと」におけるキーワードである「概要・要点」の定義づけを行った。この「概要・要点」とは本質的には相対的な概念であるため、絶対的な定義づけを行うことはできないが、説明文と論説文というテキストタイプであれば、このテキストタイプに共通した文章構成を応用して、ある程度汎用可能な「概要・要点」の定義づけが可能であるという立場に立ち、定義づけを行った。その定義を端的に言えば、「概要・要点とは文章中の抽象度が高い内容のことである」と考えている。その定義に基づいて「概要・要点の読み取り」に向けた具体的な指導方法を提案する。

1. 現状認識と本稿のねらい

中学校・高等学校外国語科での読むことの指導において、学習指導要領で用いられている「概要・要点」は欠かすことの出来ないキーワードであり、「概要・要点の読み取り」が育成すべき学力であることは広く認識されている。キーワードとしてはなじみのある「概要・要点」だが、教育実習指導など、本稿著者の教員養成に関わる指導経験において、この「概要・要点」に対して、「分かるようで分からない」という印象を抱いている実習生や教員は多いと感じている。その疑問のポイントは

- ①自らの扱う題材における「概要・要点」とは文章中のどの部分を指すと根拠を持って指導できるのか
- ②「概要・要点の読み取り」の指導として何をすればよいのか

の2点である。一定の英語学習経験のある学習者であれば、文章を読んだ際に「大体こんな内容だ＝概要」や、「ここが大事なポイントだろう＝要点」が暗黙知的に理解できるのだが、それを英語学習経験の少ない学習者に向けて指導するために形式知として扱おうと思うと、うまく言語化できないのである。本稿ではこの「概要・要点」にまつわる、暗黙知と形式知のジレンマという授業実践上の課題の克服の一助として、「概要・要点」の定義を試みた上で、その指導の具体例を提示したい。

2. 「概要・要点」とは何か

2.1. 「概要・要点」の定義の限界

まずあらかじめ、本稿が扱う射程＝限界を示して

おきたい。というのも、そもそも本稿著者はここで試みる「概要・要点」の具体的でいかなるテキストタイプにも応用できる絶対的定義というのは理論上不可能なことであり、と考えているからである。高等学校学習指導要領では、「目的に応じて情報を捉えること」と「概要・要点」の関係性が述べられており、解釈の仕方によっては「読む目的を満たす上でふさわしい情報」を「概要・要点」とするようにも読むことが出来る。本来、日常生活において読解をする目的は無数にあり、それは同じ文章であったとしても、読者の目的意識によって「概要・要点」たりえる箇所は読者の数だけあることを意味する。また「大まかな内容」と言っても、その「大まかな内容」を構成する内容は、読者の興味・関心によって異なるとも言える。これらの「何を要の情報とするかは、読者やその問題意識をはじめとして、極めて状況依存的である」という事実は、「概要・要点」に絶対的な定義を与えることが理論上不可能であることを示していると言えるし、加えて、これが「概要・要点（の読み取り）」を形式知として示すことの困難さの原因であると言える。

以上のように、与えられた文章の「要」・「不要」を見極める規準は本来状況依存的、相対的であり、それを形式知として示せるほどの具体性を持って定義を試みようとするとはいささか蛮勇であることは承知しつつ、この「概要・要点の読み取り方」を英語学習経験の少ない学習者に「とにかく読め、そしたらいつかなんとなく分かるから」ではなく、「ここに着目すればよい」という形式知として指導しなければならないという授業実践者の現実との折衷を図る際、説明文や論説文と言われるテキストタイプであれば、これらの文章構成を根拠として、学習指

導要領での説明に沿った形での定義づけが出来ると考えている。本稿における射程を説明文と論説文に絞り、「概要・要点」の定義づけを行う。

2.2. 「概要・要点」の整理

平成 29 年に告示された中学校学習指導要領の解説外国語編においては、

「概要を捉える」とは、(略) 一語一語や一文一文の意味など特定の部分にのみとらわれたりすることなく、(略) 書き手が述べていることの大まかな内容を捉えることである。

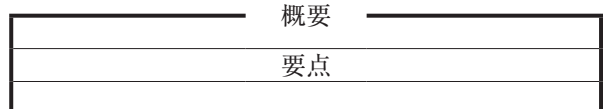
とあり、

「要点を捉える」とは、(略) 書き手が最も伝えたいことは何であるかを判断して捉えることである。(略) 文章全体の大まかな内容を把握するのではなく、文章から複数の情報を取り出し、どの情報がその説明の中で最も重要であるかを判断する点が異なることに留意する必要がある。

とされている。平成 30 年に告示された高等学校学習指導要領の解説外国語編においては、

ここでの概要とは、読んだ英語のおおよその内容や全体的な流れのことであり、要点とは、書き手が伝えたい主な考えなどの読み落としてはならない重要なポイントのことである。

とされている。以上の「概要・要点」の説明に基づけば、「概要」とは「文章全体の大まかな内容」であり、「要点」とは「書き手が最も伝えたい内容」のことであると言える。そして、この「概要」と「要点」の関係性は、これらは同じものではなく、以下の図のように、概要に(部分的であれ)内包されているのが要点であると言える。



以上の整理を踏まえて、説明文・論説文の文章構成との関連付けをもって「概要・要点」の定義づけを行いたい。

2.3. 説明文・論説文の構成(文章と段落)

(中学校・高等学校外国語科で扱う) 説明文・論説文は、文章構成及び段落構成に一定の共通点があ

ると言える。それは、複数の検定教科書において文章構成についての解説があることから伺える。

2.3.1. 説明文・論説文の文章構成

My Way English Communication II (三省堂)、*FLEX ENGLISH COMMUNICATION III* (増進堂)、*ELEMENT English Communication III* (啓林館) は、文章構成を以下のように整理している。

表 1: 教科書 3 社の文章構成の整理

<i>My Way</i>	<i>FLEX</i>	<i>ELEMENT</i>
序論	序論	Introduction
本論	本論	Body
結論	結論	Conclusion

表 1 から、文章構成を 3 つに分けるという点において共通点があることが伺える。この 3 つの構成要素の役割について、各社表記は異なるが、以下のようにまとめられると考えられる。

表 2: 文章構成の構成要素の役割

序論 (Introduction)	<ul style="list-style-type: none"> ・読み手の注意を集める。 ・話題や筆者の主張など文章の方向性を示す文を書く。
本論 (Body)	<ul style="list-style-type: none"> ・序論に関する具体的な内容を複数段落で示す。
結論 (Conclusion)	<ul style="list-style-type: none"> ・序論の論点を繰り返したり、まとめたり、筆者の主張が書かれる。

以上の内容を踏まえて、説明文・論説文の文章の構成要素を本稿著者は以下のように整理している。

表 3: 文章構成の整理

	構成要素	役割
序論	Introduction	読み手の共感を得たり、興味を引く。
	Topic	文章の主題や筆者の主張を示す。
本論	Examples	Topic の具体的な内容を示す。
結論	Conclusion	Topic の言い直しや、筆者の主張を示す。

2.3.2. 説明文・論説文の段落構成

FLEX ENGLISH COMMUNICATION III (増進堂)、*ELEMENT English Communication III* (啓林館) では、段落構成についての解説がある。それは以下のようにまとめられる。

表4：教科書2社の段落構成の整理

FLEX	ELEMENT
主題文	Topic Sentence
支持文1~3	Support 1 ~ 3
まとめ文	(Conclusion)

それぞれ表記は異なるが、以下のような役割をもった段落構成となっていると言える。

表5：段落構成の構成要素の役割

構成要素	役割
主題文 / Topic Sentence	段落の話題を示す。
指示文 / Support	主題文の具体的な内容を示す。
まとめ文 / (Conclusion)	段落の内容のまとめを示す。書かれないこともある。

これを本稿著者の表3の文章構成の整理と関連付けると、本論を構成する Examples が以下のような構成となっていると言える。

表6：段落構成の整理

本論	Examples	主題文	段落の話題を示す。
		指示文	主題文の具体的な内容を示す。
		まとめ文	段落の内容のまとめを示す。書かれないこともある。

2.3.3. 説明・論説文の構造

表3と表6で示した、文章構成と段落構成を踏まえると、表7のように説明文や論説文の構造を整理することができる。文章全体であれ段落であれ、主題や主張といった内容の方向性を示す「抽象」を表す部分と、その方向性について詳細な内容を示す「具体」を表す部分とに分けることが出来ると言える。

表7：文章構成と段落構成の整理

構成要素		抽象 / 具体	
序論	Introduction	※	
	Topic	抽象	
本論	Examples 1	Topic Sentence 1	抽象
		Support	具体
	Examples 2	Topic Sentence 2	抽象
		Support	具体
	Examples 3	Topic Sentence 3	抽象
		Support	具体
結論	Conclusion	抽象	

※ Introduction は読み手の興味を引くことが主たる目的であり、内容伝達に直接かかわらない構成要素と言えるため、「抽象・具体」の整理には馴染まないと考える。また、Examples は便宜上1~3としているが、その数は3つとは限らない。

2.4. 「概要・要点」の定義

表7に示した文章構成・段落構成を用いて、「概要・要点」の定義を試みたい。まず、説明文・論説文において最も重要な内容、学習指導要領の言葉を借りれば「書き手が最も伝えたい内容」は、上記の構成要素の中で言えば Topic か Conclusion となる。これらはどちらも筆者の主張 = 書き手が最も伝えたい内容を表す構成要素となる。文章によっては、Topic は文章の主題を表すが、「そもそもこの文章が何について書かれているのか」を表す Topic は「読み落としてはならないポイント」たりえるであろう。したがって、説明文や論説文における要点とは「文章全体の主題を表す箇所 (= Topic) と結論を表す箇所 (= Conclusion) 、つまり文章中で抽象度が最も高い内容」と定義づけることが出来る。そして概要は、要点 (Topic / Conclusion) に、本論 (= Examples) を表す各段落の中での抽象度の高い内容 (= Topic Sentence) を加えたものと定義することによって、説明文や論説文の「概要・要点」を形式知として指導することが出来ると考えている。

この定義は、「概要に内包されるのが要点」

関係性を保ちつつ、かつ複数の情報から（情報の抽象度を根拠として）優先順位の高い情報を「概要・要点」とするという、学習指導要領の「概要・要点」の整理にも合致するものであると言える。

したがって、以下の網掛けの部分が「概要・要点」にあたる構成要素であり、網掛けされていない部分が「概要・要点」ではない構成要素とする。

表 8 : 「概要・要点」 にあたる構成要素

構成要素		役割	抽象度	
序論	Introduction	読み手の共感を得たり、興味を引く。	※	
	Topic	文章の主題や筆者の主張 (= 文章全体の方向性) を示す。	高 (要点・概要)	
本論	Examples 1	Topic Sentence 1	段落の主題 (段落の方向性) を示す	中 (概要)
		Support	段落の主題の具体的な内容を示す	低
	Examples 2	Topic Sentence 2	段落の主題 (段落の方向性) を示す	中 (概要)
		Support	段落の主題の具体的な内容を示す	低
	Examples 3	Topic Sentence 3	段落の主題 (段落の方向性) を示す	中 (概要)
		Support	段落の主題の具体的な内容を示す	低
結論	Conclusion	Topic の言い直しや、筆者の主張を示す。	高 (要点・概要)	

2.5. 英語の文章への応用

表 8 に示した整理に従って、以下の英語の文章の概要・要点を整理したい。

<p>Breakfast is often called “the most important meal of the day.” There are two positive effects of eating breakfast.</p> <p>First, eating breakfast leads to higher energy levels. We can make a good start of the day. Second, eating breakfast positively affects our concentration. We can focus on our work for a longer time because the brain functions better.</p> <p>In summary, breakfast brings us energy and power of concentration. Thus, eating breakfast is necessary for everyone.</p> <p style="text-align: right;"><i>MY WAY English Communication II</i> (三省堂) より</p>

この文章を表 8 にあてはめると以下ようになる。

表 9 : 英語の文章の整理

構成要素		英文	抽象度	
序論	Introduction	Breakfast is often called “the most important meal of the day.”	※	
	Topic	There are two positive effects of eating breakfast.	高 (要点・概要)	
本論	Examples 1	Topic Sentence 1	First, eating breakfast leads to higher energy levels.	中 (概要)
		Support	We can make a good start of the day.	低
	Examples 2	Topic Sentence 2	Second, eating breakfast positively affects our concentration.	中 (概要)
		Support	We can focus on our work for a longer time because the brain functions better.	低
結論	Conclusion	(In summary, breakfast brings us energy and power of concentration.) Thus, eating breakfast is necessary for everyone.	高 (要点・概要)	

表 9 に示した文章の整理に従えば、網掛けをしている部分が、「概要・要点」に関わる内容となる。したがって、この文章の概要と要点は次のようにまとめることができる。

概要：この文章は朝食をとることの好ましい効果が 2 つ書かれており、それは朝食によって活力と集中力が上がることである。このように、朝食をとることはすべての人にとって必要なのである。

要点：この文章は朝食をとることの好ましい効果について書かれていて、筆者は朝食をとることは全ての人に必要であると考えている。

3. 概要・要点の読み取りの指導

3.1. 「概要・要点を読み取る」とは

概要・要点を読み取るという指導における疑問として「英問英答に答えることで概要・要点を読み取れたと言えるのか」や「4択問題に答えることで概要・要点を読み取れたと言えるのか」といったものである。確かに、大学入試センターが公表している、令和7年度の大学入学共通テストの試行問題「英語」の概要には、「コミュニケーションを行う目的や場面、状況に応じて、情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解する力を引き続き重視する」という方向性が示されている。そしてその試行問題の問題形式は従来と同じ4択の選択問題である。

しかし、ここで留意したいのが、先述したように「概要・要点」とは文章中における抽象度（重要度）が高い内容のことである。それを読み取るということは言い換えれば、抽象度という観点で内容を比較をするということである。したがって、「英問英答」や「選択式」という発問の形式が問題なのではなく、内容の抽象度の比較検証（表9の網掛け部分とそうでない部分の判別）を要求する発問になっているかどうかという、発問の質が問題となってくる。そこで、先述した英文を用いながら、「概要・要点の読み取り」の指導の具体を以下に記したい。

3.2. 「概要・要点の読み取り」のポイント

「概要・要点の読み取り」の指導のポイントとしては、学習者が正答を判断するポイントが「本文内容の抽象度」であることに留意したい。つまり、上記の文章の整理で言えば、学習者の

抽象を表している内容と具体を表している内容を見極める

という思考プロセスを要求するような指導である必要があるということである。その手立てとして、以下のような手段を提案したい。

3.3. 要約

内容の取捨選択を要求する要約は「概要・要点」の読み取りの学力を測る上で最も扱いやすいタスクである。内容の取捨選択を行う、すなわち内容の「要」を見極める根拠として、内容の抽象度に着目させればよい。「概要」を問うのか、「要点」を問うのかについては、文字（語）数制限によって使い分ければよい。概要に内包されているのが要点であることを踏まえれば、「概要」を答える文字（語）数は「要点」よりも多くなる。先の英語の文章で言えば、「90字

以内の日本語で要約しなさい」という指示であれば、「概要」として示した「この文章は朝食をとることの好ましい効果が2つ書かれており、それは朝食によって活力と集中力が上がることである。このように、朝食をとることはすべての人にとって必要なのである。（85字）」となるし、「60字以内の日本語で要約しなさい」という指示であれば、「要点」として示した「この文章は朝食をとることの好ましい効果について書かれていて、筆者は朝食をとることは全ての人に必要であると考えている。（58字）」となるだろう。

本稿にて示した「概要・要点」の定義を用いて、「文章構成の整理によって示した、抽象度が高い内容を優先的に文字（語）数制限の中に含める」という指導が可能になる。

3.4. 選択式の Q&A

選択式の Q&A を用いて「概要・要点の読み取り」を指導する際には、学習者が正答の根拠を「内容の正誤」ではなく、「内容の抽象度」とするように留意したい。例えば、以下のような本文中に書かれていないものを選択肢に含める Q&A だと、「内容の正誤」による解答が可能になってしまう。

Q : What is the main topic of the passage?

- ① It is the positive effects of eating breakfast.
- ② It is the most important event for the author.
- ③ It is the cultural habit of eating food.
- ④ It is the popular job.

以下のように問うことで、「内容の抽象度」に意識を向けることができる。

Q : What is the main topic of the passage?

- ① It is the positive effects of eating breakfast.
- ② It is how we can raise energy level.
- ③ It is how breakfast affects our concentration.
- ④ It is how our brains work better.

最初のものとは違い、この Q&A では②～④は本文中に述べられている内容なので、「本文に書かれているかどうか」という点だけでは、正誤が判断できない。このように、内容の抽象度に意識を向けさせることで、「概要・要点」を読み取る指導にすることが出来る。

3.5. 空所補充（要点の読み取り）

文章構成の中の Topic (Sentence) や Conclusion を空所にして、そこを埋めさせることによって、要点を読み取る指導にすることができる。例えば、

○以下の英語の文章中の に適切な英文を入れなさい。

Breakfast is often called “the most important meal of the day.”

First, eating breakfast leads to higher energy levels. We can make a good start of the day. Second, eating breakfast positively affects our concentration. We can focus on our work for a longer time because the brain functions better.

In summary, breakfast brings us energy and power of concentration. Thus, eating breakfast is necessary for everyone.

といったタスクである。空所にすることで、Examplesにあたる内容を統合する、または、同じような内容を表す役割を持った Conclusionにあたる内容から予測するといった思考を駆動させることが出来る。いずれにしても、Topic (= 要点)にあたる内容を読み取ることを要求している点で、「要点」の読み取り指導になると言える。

4. まとめ

本稿では、説明文や論説文のテキストタイプを対象とし、これらのテキストタイプには一定の共通する文章構成があるという前提に立って、その文章構成の構成要素のうち、主張や主題といった内容の方向性を示す部分を抽象度が高い内容とし、「概要・要点」とする、という形で定義づけを行い、その上で「概要・要点の読み取り」の具体的な指導方法を提案した。本稿で示した定義づけに基づけば、本稿の要点は「この論文は『概要・要点の定義』について書かれてあり、著者は抽象度の高い内容を『要』とすべきであると主張している。」となり、概要は「この論文は『概要・要点の定義』について書かれてあり、

その定義を応用した指導の提案がなされている。著者は抽象度の高い内容を『要』とすべきであると主張している。」となる。このように、本稿で示した「文章の要とは何か」という問いに対する「それは内容の抽象度が高い部分である」という答えは、中等教育における教科書の文章以外でも、一定の汎用性を持っており、説明的な内容であれば「聞くこと」における「概要・要点」にも応用できる定義であると考えている。しかし、この定義は表8に示した説明文や論説文の文章構成における共通点を前提としているため、物語のテキストタイプなど、文章構成が異なる場合には応用できない定義となっていることをご容赦願いたい。また、説明文や論説文においても、文章全体の Topic や段落の Topic Sentence が明示されないものもあり、そういった特徴をもった文章では、本稿で扱った整理をそのまま応用して概要の読み取りを行うことができない。そういった文章については、空所補充の形式で要点の読み取りとして扱うなど、工夫を期待したい。

引用・参考文献

- 1) 文部科学省, 『中学校学習指導要領解説外国語編』, 2017.
- 2) 文部科学省, 『高等学校学習指導要領解説外国語編』, 2018.
- 3) 増進堂, 『FLEX ENGLISH COMMUNICATION III』, 2023.
- 4) 三省堂, 『My Way English Communication II』, 2023
- 5) 啓林館, 『ELEMENT English Communication III』, 2018
- 6) 独立行政法人大学入試センター, 令和7年度試験の問題作成の方向、試作問題等, https://www.dnc.ac.jp/kyotsu/shiken_jouhou/r7/r7_kentoujoukyou/r7mondai.html (閲覧日: 2024年1月9日)

Definition of the terms, “the outline” and “the main points,” in the Course of Study for Foreign Languages

Narichika HISAMATSU

Abstract :

This study aims to define the terms, “the outline” and “the main points” in the Course of Study for Foreign Languages. In the Course of Study, it is required to develop students' ability to grasp “the outline” and “the main points” of English passages. These terms have been the keywords for developing reading comprehension ability, but many instructors are unsure about what these terms express because of their ambiguity. This study defines these terms by focusing on the structure of the explanatory texts.